

# 計 算 書 類

## 第 130 期

自 令和6年 4月 1日

至 令和7年 3月 31日

1. 貸 借 対 照 表
2. 損 益 計 算 書
3. 株主資本等変動計算書
4. 個 別 注 記 表

タキロンシーアイ株式会社

貸借対照表

(2025年3月31日現在)

(単位：百万円)

科 目	金 額	科 目	金 額
( 資 産 の 部 )		( 負 債 の 部 )	
流動資産	69,709	流動負債	26,221
現金及び預金	3,012	電 子 記 録 債 務	496
受取手形	702	買掛金	16,403
電子記録債権	5,397	短期借入金	2,431
売掛金	12,400	リース負債	15
商品及び製品	10,304	未払金	2,155
仕掛品	1,189	未払費用	841
原材料及び貯蔵品	2,029	未払法人税等	393
前払費用	52	賞与引当金	1,311
短期貸付金	9,752	役員賞与引当金	42
1年内回収予定の金	276	契約負債	43
未収入金	2,394	預り金	1,882
預け金の金	22,187	設備関係支払手形	204
そ の 他 金	15		
貸倒引当金	△ 5		
固定資産	46,416	固定負債	4,747
有形固定資産	22,278	リース負債	28
建物	6,611	退職給付引当金	3,649
構築物	502	役員退職慰労引当金	117
機械及び装置	2,745	製品保証引当金	203
車両運搬具	46	資産除去債務	88
工具、器具及び備品	852	そ の 他	660
土地	10,245		
リース資産	28		
建設仮勘定	1,245		
無形固定資産	2,665	負債合計	30,968
ソフトウェア資産	2,644		
リースの資産	2	( 純 資 産 の 部 )	
その他	18	株 主 資 本	85,071
		資本金	15,216
投資その他の資産	21,471	資本剰余金	28,560
投資有価証券	876	資本準備金	14,689
関係会社出資	10,701	その他資本剰余金	13,871
長期貸付金	2,139		
長期前払費用	1,280	利益剰余金	41,305
貸前用資産	157	利益準備金	1,223
前払年金費用	1,097	その他利益剰余金	40,081
繰延税金資産	1,217	配当準備積立金	200
繰延税金	2,509	固定資産圧縮積立金	95
貸倒引当金	1,492	別途積立金	3,750
	△ 2	繰越利益剰余金	36,036
		自己株式	△ 11
		評価・換算差額等	85
		その他有価証券評価差額金	89
		繰延ヘッジ損益	△ 3
		純 資 産 合 計	85,156
資 産 合 計	116,125	負債・純資産合計	116,125

# 損 益 計 算 書

〔 自 2024年4月 1日  
至 2025年3月31日 〕

(単位 : 百万円)

科 目	金 額	
売 上 高		73,011
売 上 原 価		50,885
売 上 総 利 益		22,126
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費		18,618
営 業 利 益		3,507
営 業 外 収 益		
受 取 利 息 及 び 配 当 金	2,033	
受 取 賃 貸 料	137	
そ の 他	405	2,576
営 業 外 費 用		
支 払 利 息	280	
賃 貸 収 入 原 価	74	
為 替 差 損	73	
そ の 他	157	585
経 常 利 益		5,498
特 別 利 益		
固 定 資 産 売 却 益	1	
関 係 会 社 株 式 売 却 益	47	
投 資 有 価 証 券 売 却 益	529	
ゴ ル フ 会 員 権 売 却 益	6	583
特 別 損 失		
固 定 資 産 処 分 損	226	
減 損 損 失	174	
関 係 会 社 整 理 損	222	623
税 引 前 当 期 純 利 益		5,459
法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税	923	
法 人 税 等 調 整 額	36	959
当 期 純 利 益		4,499

株 主 資 本 等 変 動 計 算 書

{ 自 2024年4月 1日  
至 2025年3月31日 }

(単位：百万円)

	株 主 資 本											
	資本金	資本剰余金			利益剰余金						自己株式	株主資本合計
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金				利益剰余金合計		
						配当準備積立金	固定資産圧縮積立金	別途積立金	繰越利益剰余金			
当期首残高	15, 216	14, 689	13, 871	28, 560	1, 223	200	96	3, 750	32, 608	37, 878	△ 146	81, 509
当期変動額												
剰余金の配当									△ 1, 073	△ 1, 073		△ 1, 073
当期純利益									4, 499	4, 499		4, 499
税率変更に伴う固定資産圧縮積立金の変動額							△ 1		1	－		－
自己株式の取得											△ 1	△ 1
自己株式の処分											136	136
株主資本以外の項目の事業年度中の変動額(純額)												－
当期変動額合計	－	－	－	－	－	－	△ 1	－	3, 427	3, 426	135	3, 561
当期末残高	15, 216	14, 689	13, 871	28, 560	1, 223	200	95	3, 750	36, 036	41, 305	△ 11	85, 071

	評価・換算差額等			純資産合計
	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	評価・換算差額等合計	
当期首残高	591	△ 3	588	82,098
当期変動額				
剰余金の配当				△ 1,073
当期純利益				4,499
税率変更に伴う固定資産圧縮積立金の変動額				－
自己株式の取得				△ 1
自己株式の処分				136
株主資本以外の項目の事業年度中の変動額(純額)	△ 502	△ 0	△ 502	△ 502
当期変動額合計	△ 502	△ 0	△ 502	3,058
当期末残高	89	△ 3	85	85,156

# 個別注記表

## 1. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

- (1) 有価証券の評価基準及び評価方法
- |                 |     |  |
|-----------------|-----|--|
| 子会社株式及び関連会社株式   | ・・・ | 移動平均法による原価法                              |
| その他有価証券         |     |  |
| 市場価格のない株式等以外のもの | ・・・ | 時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定） |
| 市場価格のない株式等      | ・・・ | 移動平均法による原価法                              |
- (2) デリバティブ等の評価基準及び評価方法
- |        |     |     |
|--------|-----|-----|
| デリバティブ | ・・・ | 時価法 |
|--------|-----|-----|
- (3) 棚卸資産の評価基準及び評価方法
- |      |     |  |
|------|-----|--|
| 棚卸資産 | ・・・ | 主として総平均法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切り下げの方法により算定） |
|------|-----|--|
- (4) 固定資産の減価償却の方法
- |                                |     |   |
|--------------------------------|-----|---|
| 有形固定資産（リース資産を除く）               |     |   |
| 建物、構築物                         | ・・・ | 主として定額法<br>主な耐用年数は5～50年であります。               |
| 機械及び装置、車両運搬具、<br>工具、器具及び備品     | ・・・ | 定率法<br>主な耐用年数は5～8年であります。                    |
| 無形固定資産（リース資産を除く）               | ・・・ | 定額法<br>主な耐用年数は次のとおりであります。<br>自社利用のソフトウェア 5年 |
| リース資産                          |     |   |
| 所有権移転外ファイナンス・<br>リース取引に係るリース資産 | ・・・ | リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法                   |
| 長期前払費用                         | ・・・ | 定額法<br>主な償却年数は5年であります。                      |
| 賃貸用資産                          | ・・・ | 主として定額法<br>主な耐用年数は2～60年であります。               |
- (5) 引当金の計上基準
- |         |     |   |
|---------|-----|---|
| 貸倒引当金   | ・・・ | 売掛債権、貸付金等の債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。   |
| 賞与引当金   | ・・・ | 従業員の賞与の支給に充てるため、賞与支給見込額を計上しております。   |
| 役員賞与引当金 | ・・・ | 役員賞与の支出に備えて、当事業年度における支給見込額に基づき計上しております。   |
| 退職給付引当金 | ・・・ | 従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。<br>①退職給付見込額の期間帰属方法<br>退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。<br>②数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法<br>過去勤務費用については、発生年度において一括して費用処理または費用から減額する方法を採用しております。<br>数理計算上の差異については、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数（主に10年）による定額法により案分した額を、それぞれ発生の翌事業年度から費用処理しております。 |

役員退職慰労引当金	・・・	伊藤忠商事株式会社による当社株式に係る株式売渡請求に応じたため、信託を用いた株式報酬制度及び譲渡制限付株式報酬制度を廃止し、当該制度が対象としていた現中期経営計画期間における役員報酬の一部として、取締役会決議に基づく退職慰労金支給見込み額を計上しております。
製品保証引当金	・・・	顧客に納品した製品に対する将来の製品交換及び補修費用の発生に備えるため、必要と見込まれる金額を引当計上しております。

#### (6) 重要な収益及び費用の計上基準

当社は、収益に係る会計処理について、「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。）等に基づき、次の5ステップに従って、収益を認識しております。

- ステップ1 契約の識別
- ステップ2 履行義務の識別
- ステップ3 取引価格の算定
- ステップ4 取引価格の履行義務への配分
- ステップ5 履行義務の充足による収益の認識

当社は、主に建築資材・シビル製品、高機能材製品、フィルム製品等の製造販売を行っております。これらの製品の販売については、製品が顧客に検収された時点において顧客が当該製品に対する支配を獲得し、履行義務が充足されると判断していることから、通常は製品が顧客に検収された時点で収益を認識しております。国内の販売においては、出荷時から顧客による検収時までの期間が通常の期間である場合には、出荷時に収益を認識しております。

#### (7) 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

#### (8) ヘッジ会計の方法

##### ①ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理を採用しております。また、為替変動リスクのヘッジについて振当処理の要件を充たしている場合には振当処理を、金利スワップについて特例処理の条件を充たしている場合には特例処理を採用しております。

##### ②ヘッジ手段とヘッジ対象

当事業年度にヘッジ会計を適用したヘッジ対象とヘッジ手段は以下のとおりであります。

- a. ヘッジ手段：為替予約  
ヘッジ対象：外貨建金銭債権債務
- b. ヘッジ手段：金利スワップ  
ヘッジ対象：借入金の利息

##### ③ヘッジ方針

主に当社の内規である「デリバティブ管理規程」に基づき、金利変動リスク、為替変動リスクをヘッジしております。

##### ④ヘッジ有効性評価の方法

ヘッジ対象の相場変動またはキャッシュ・フロー変動の累計とヘッジ手段の相場変動またはキャッシュ・フロー変動の累計を比較し、その変動額の比率によって有効性を評価しております。ただし、特例処理によっている金利スワップについては、有効性の評価を省略しております。

## 2. 会計方針の変更に関する注記

「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」（企業会計基準第27号 2022年10月28日。以下「2022年改正会計基準」という。）等を当事業年度の期首から適用しております。

法人税等の計上区分（その他の包括利益に対する課税）に関する改正については、2022年改正会計基準第20－3項ただし書きに定める経過的な取扱い及び「税効果会計に係る会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第28号2022年10月28日。以下「2022年改正適用指針」という。）第65－2項（2）ただし書きに定める経過的な取扱いに従っております。なお、当該会計方針の変更による計算書類への影響はありません。

当社の計算書類に掲載される科目、その他の事項の金額は、百万円未満を切り捨てて記載しております。

3. 会計上の見積りに関する注記

1. 有形固定資産

(1) 当事業年度の計算書類に計上した金額

(単位：百万円)	
	当事業年度
有形固定資産	22,278

(2) 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

当社は、有形固定資産のうち減損の兆候がある資産又は資産グループについて、当資産又は資産グループから得られる割引前将来キャッシュ・フローの総額が帳簿価額を下回る場合には、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として計上しております。有形固定資産の減損の兆候の把握、減損損失の認識の判定及び測定に当たっては慎重に検討しておりますが、事業計画や市場環境の変化により、その見積りの前提とした条件や仮定に変更が生じた場合、減損損失の認識の判定及び測定に影響を与える可能性があります。

2. 繰延税金資産

(1) 当事業年度の計算書類に計上した金額

(単位：百万円)	
	当事業年度
繰延税金資産	2,509

(2) 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

当社は、回収可能性があると判断した将来減算一時差異について繰延税金資産を計上しております。繰延税金資産の見積りは将来の事業計画及び貸借対照表日時点で適用されている税制や税率に基づいており、その見積りの前提とした条件や仮定に変更が生じた場合、翌事業年度以降の計算書類において繰延税金資産を認識する金額に重要な影響を与える可能性があります。

4. 貸借対照表に関する注記

(1) 資産に係る減価償却累計額

有形固定資産の減価償却累計額	79,133 百万円
賃貸用資産の減価償却累計額	3,825 百万円

(2) 保証債務

他の会社の金融機関等からの借入債務及び電子記録債務に対し、保証を行っております。

タキロンテック㈱（電子記録債務）	198 百万円
従業員（住宅資金借入債務）	1 百万円
計	199 百万円

(3) 関係会社に対する金銭債権及び金銭債務

短期金銭債権	15,447 百万円
長期金銭債権	1,280 百万円
短期金銭債務	12,564 百万円

5. 損益計算書に関する注記

(1) 関係会社との取引高		
営業取引による取引高		
売上高		29,653 百万円
仕入高		33,736 百万円
営業取引以外の取引による取引高		2,169 百万円

(2) 減損損失	174 百万円
当事業年度において計上した重要な減損損失は以下のとおりであります。	

場所	用途	種類
建装資材事業 (滋賀県湖南市 他)	事業用資産	機械及び装置 建設仮勘定 他

当社の資産グルーピングは、賃貸用資産及び遊休資産については個別物件単位で、事業用資産については、管理会計上の区分によっております。

建装資材事業につきましては、経営環境の悪化によって業績が低迷しており、短期間での業績の回復が困難であると判断したため、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失（174百万円）として特別損失に計上いたしました。その内訳の主なものは、機械及び装置121百万円、建設仮勘定34百万円であります。

なお、回収可能価額は使用価値により測定しておりますが、将来キャッシュ・フローが見込めないため、零としております。

6. 株主資本等変動計算書に関する注記

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当事業年度期首株式数 (千株)	当事業年度増加株式数 (千株)	当事業年度減少株式数 (千株)	当事業年度末株式数 (千株)
発行済株式				
普通株式	97,597	—	—	97,597
合計	97,597	—	—	97,597
自己株式				
普通株式	235	2	212	24
合計	235	2	212	24

(注) 1. 当事業年度期首の自己株式数には、役員向け株式交付信託が所有する当社株式が212千株含まれておりましたが、伊藤忠商事株式会社による当社株式に係る株式売渡請求に応じたため、当事業年度末の株式数には含まれておりません。

2. 普通株式の自己株式の株式数の増加は、単元未満株式の買取によるものであります。

2. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
2024年6月26日 定時株主総会	普通株式	1,073	利益剰余金	11.0	2024年3月31日	2024年6月27日

(注) 配当金の総額には、取締役等に対する株式報酬制度として信託が保有する当社株式に対する配当金2百万円が含まれております。



7. 税効果会計に関する注記

(1) 繰延税金資産と繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

繰延税金資産		
棚卸資産評価損		158 百万円
投資有価証券評価損		91 百万円
関係会社株式評価損		969 百万円
固定資産減損損失		481 百万円
賞与引当金		400 百万円
退職給付引当金		762 百万円
資産除去債務		35 百万円
その他		460 百万円
繰延税金資産	小計	3,360 百万円
評価性引当額		△ 765 百万円
繰延税金資産	合計	2,594 百万円
繰延税金負債		
固定資産圧縮積立金		△ 43 百万円
その他有価証券評価差額金		△ 40 百万円
その他		△ 0 百万円
繰延税金負債	合計	△ 84 百万円
繰延税金資産の純額		2,509 百万円

(2) 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」（令和7年法律第13号）が2025年3月31日に国会で成立したことに伴い、2026年4月1日以後開始する事業年度より、「防衛特別法人税」の課税が行われることになりました。これに伴い2026年4月1日に開始する事業年度以降に解消が見込まれる一時差異に係る繰延税金資産及び繰延税金負債については、法定実効税率を30.5%から31.4%に変更し計算しております。この変更により、当事業年度の繰延税金資産の金額（繰延税金負債の金額を控除した金額）は33百万円増加、法人税等調整額が34百万円変動、その他有価証券評価差額金が1百万円減少しております。

8. 金融商品に関する注記

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社は、資金運用については短期的な預金等に限定し、銀行等金融機関からの借入により資金調達しております。デリバティブは、後述するリスクを回避するために利用しており、投機的な取引は行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形、売掛金、電子記録債権は、顧客の信用リスクに晒されております。また、一部の売掛金は、為替の変動リスクに晒されておりますが、為替予約を利用してヘッジしております。短期貸付金、1年内回収予定の長期貸付金、長期貸付金は主に子会社に対する運転資金貸付であります。預け金は、主に親会社である伊藤忠商事㈱のグループ金融制度の利用に伴うものであり、伊藤忠商事株式会社の子会社である伊藤忠トレジャリー㈱に対する預け金であります。有価証券及び投資有価証券は、主に業務上の関係を有する企業の株式であり、市場価格の変動リスクに晒されております。

営業債務である買掛金、電子記録債務は、そのほとんどが1年以内の支払期日であります。借入金の使途は運転資金（主として短期）であります。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

① 信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

当社は、与信管理規程に従い、営業債権について各事業部における営業部が主要な取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引相手ごとに期日及び残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

デリバティブ取引については、取引相手先を高格付を有する金融機関に限定しているため信用リスクはほとんどないと認識しております。

② 市場リスク（為替や金利等の変動リスク）の管理

当社は、外貨建ての営業債権債務について、通貨別月別に把握された為替の変動リスクに対して、原則として先物為替予約を利用してヘッジしております。

有価証券及び投資有価証券については、定期的に時価や発行体（取引先企業）の財務状況等を把握し、市況や取引先企業との関係を勘案して保有状況を継続的に見直しております。

③ 資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払いを実行できなくなるリスク）の管理

当社は、各社担当部門が適時に資金繰り計画を作成・更新するとともに、手許流動性の維持などにより流動性リスクを管理しております。

2. 金融商品の時価等に関する事項

2025年3月31日における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

(単位：百万円)

	貸借対照表計上額	時価	差額
投資有価証券	828	828	—
長期貸付金(1年内回収予定を含む)	1,556	1,544	△ 12

(注1) 短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似するものについては、記載を省略しております。

(注2) 以下の金融商品は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「投資有価証券」には含まれておりません。当該金融商品の貸借対照表計上額は以下のとおりであります。

(単位：百万円)

	当事業年度
非上場株式	48

(注3) 「関係会社株式」及び「関係会社出資金」はいずれも市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるものであります。

9. 関連当事者との取引に関する注記

親会社及び法人主要株主等

(単位：百万円)

種類	会社等の名称	議決権等の所有（被所有）割合（注3）	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額（注2）	科目	期末残高（注2）
親会社	伊藤忠商事㈱	被所有 直接 64.9% 間接 35.1%	原材料等の購入	原材料等の仕入（注1）	16,038	買掛金	8,728

取引条件及び取引条件の決定方針等

(注1) 原材料等の仕入については、市場価格を勘案して交渉により決定しております。

(注2) 取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

(注3) 議決権等の被所有割合は四捨五入により小数点第1位まで表示しております。

子会社及び関連会社等

(単位：百万円)

種類	会社等の名称	議決権等の 所有（被所有） 割合（注５）	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 （注４）	科目	期末残高 （注４）
子会社	BONLEX EUROPE S.r.l.	所有 直接 100.0%	資金の援助	資金の回収 （注１）	164	短期貸付金	2,431
子会社	タキロンシーアイ プラス㈱	所有 直接 100.0%	製品の販売	製品の販売 （注３）	8,992	売掛金	676
子会社	タキロンマテックス㈱	所有 直接 100.0%	製品の販売  資金の援助	製品の販売 （注３）  資金の回収 （注２）	10,354  735	売掛金  短期貸付金	878  680
子会社	シーアイマテックス㈱	所有 直接 100.0%	資金の援助	資金の貸付 （注２）	143	短期貸付金	1,529
子会社	タキロンシーアイ シビル㈱	所有 直接 100.0%	資金の援助	資金の回収 （注２）	367	短期貸付金	1,885
子会社	タキロンポリマー㈱	所有 直接 100.0%	資金の援助	資金の回収 （注１） （注２）	226	短期貸付金  長期貸付金	430  1,200
子会社	タキロンテック㈱	所有 直接 100.0%	製品の仕入  原材料の供給  資金の援助	製品の仕入 （注３） 原材料の供給 （注３） 資金の貸付 （注２）	13,139  7,875  148	買掛金  未収入金  短期貸付金	1,385  1,504  907

取引条件及び取引条件の決定方針等

（注１）資金の貸付については、市場金利を勘案して決定しており、返済条件は以下のとおりとなっております。

短期貸付金：期間 １年 極度枠利用による随時返済条件

長期貸付金：期間 ２年 期日一括返済条件

長期貸付金：期間 ３年 期日一括返済条件

長期貸付金：期間 ５年 半年賦返済条件

なお、担保の受入は行っておりません。

（注２）資金取引はCMS（キャッシュ・マネジメント・システム）による取引であります。

（注３）棚卸資産の販売価格及び仕入価格については、市場価格を勘案して交渉により決定しております。

（注４）取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

（注５）議決権等の所有割合は四捨五入により小数点第１位まで表示しております。

兄弟会社等

(単位：百万円)

種類	会社等の名称	議決権等の 所有（被所有） 割合	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 （注３）	科目	期末残高 （注３）
親会社 の子会 社	CIPSアドバンス㈱	—	製品の販売	製品の販売 （注１）	5,338	売掛金	2,671
親会社 の子会 社	伊藤忠トレジャリー㈱	—	資金取引	余剰資金の 預け入れ （注２）	2,637	預け金	22,186

取引条件及び取引条件の決定方針等

（注１）棚卸資産の販売価格については、市場価格を勘案して交渉により決定しております。

（注２）資金取引はCMS（キャッシュ・マネジメント・システム）による取引であります。

（注３）取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

１０．１株当たり情報に関する注記

１株当たり純資産額

872円75銭

１株当たり当期純利益

46円16銭

附属明細書（計算書類関係）

1. 有形固定資産及び無形固定資産（投資その他の資産に計上された償却費の生ずるものを含む。）の明細

（単位：百万円）

区分	資産の種類	期首 帳簿価額	当期 増加額	当期 減少額	当期 償却額	期末 帳簿価額	減価償却 累計額	期末 取得原価
有形 固定資産	建物	6,707	678	49 (1)	726	6,611	19,215	25,827
	構築物	526	39	0 -	62	502	4,328	4,831
	機械及び装置	2,687	1,104	123 (121)	922	2,745	42,564	45,310
	車両運搬具	58	23	3 (3)	31	46	338	384
	工具、器具及び備品	864	435	21 (5)	425	852	12,485	13,338
	土地	10,251	0	6 -	-	10,245	-	10,245
	リース資産	33	11	4 -	12	28	200	229
	建設仮勘定	249	3,323	2,328 (34)	-	1,245	-	1,245
	計	21,378	5,617	2,536 (167)	2,180	22,278	79,133	101,412
無形 固定資産	ソフトウェア	2,581	1,075	30 (7)	983	2,644		
	リース資産	4	-	-	1	2		
	その他	22	-	-	3	18		
	計	2,608	1,075	30 (7)	988	2,665		
賃貸用資産		1,152	-	0	55	1,097	3,825	4,923

（注1） 当期増加額のうち主なものは次のとおりであります。

機械及び装置	平塚工場 製品自動搬送設備	241 百万円
建設仮勘定	三田総合研究所建物建築費用	910 百万円
ソフトウェア	生産管理システム (Mcframe) 第2期ソフトウェア	678 百万円

（注2） 「当期減少額」欄の（ ）は内数で、当期の減損損失計上額であります。

2. 引当金の明細

（単位：百万円）

科目	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高
貸倒引当金	200	30	224	7
賞与引当金	1,258	1,311	1,258	1,311
役員賞与引当金	97	42	97	42
退職給付引当金 （前払年金費用含む）	2,536	422	527	2,431
役員退職慰労引当金	-	117	-	117
株式給付引当金	93	23	117	-
製品保証引当金	267	-	64	203

## 3. 販売費及び一般管理費の明細

(単位：百万円)

科 目	金 額	摘 要
荷 造 運 送 費	3,680	
荷 役 保 管 料	1,503	
倉 庫 賃 借 料	699	
見 本 費	177	
広 告 宣 伝 費	264	
販 売 促 進 費	11	
特 許 使 用 料	△ 1	
役 員 報 酬 手 当	357	
従 業 員 給 与	2,397	
従 業 員 賞 与	297	
賞 与 引 当 金 繰 入 額	602	
役 員 賞 与 引 当 金 繰 入 額	42	
退 職 金	53	
退 職 給 付 引 当 金 繰 入 額	228	
役 員 退 職 慰 労 引 当 金 繰 入 額	66	
福 利 厚 生 費	968	
派 遣 社 員 報 酬	104	
他 勘 定 振 替 額	△ 41	
水 道 光 熱 費	29	
通 信 費	64	
消 耗 品 費	132	
旅 費 交 通 費	346	
交 際 費	49	
租 税 公 課	77	
団 体 組 合 会 費	34	
事 務 所 賃 借 料	521	
減 価 償 却 費	1,335	
研 究 開 発 費	1,640	
会 議 費	33	
寄 付 金	0	
E D P 運 用 費	1,005	
リ ー ス 料	20	
支 払 手 数 料	1,209	
事 業 税	360	
資 産 除 去 費 用	95	
雑 費	521	
他 勘 定 振 替 額	△ 272	
計	18,618	